

第10期 第1回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】平成28年(2016年)7月4日(月)13時から15時まで

【場 所】豊中市消防局 3階会議室

【出席委員】浅利委員 花嶋委員 渡辺委員 仲尾委員 中西委員 山田委員 新開委員
中澤委員 長谷川委員 神保委員 岡田委員 米田委員 澤村委員 大西委員
(15名中14名出席：有効に成立)

【傍聴者】0名

【事務局】脇山、井藤、勝井、中村、吉島、中川、吉村、勝羽、澤田、松本、大和、大道、
村林、柴田、石村、上野、射場、豊田、森

【オブザーバー】鈴木(豊中市伊丹市クリーンランド事務局長)、道端

【コンサルタント】齋藤

1. 開会宣言(事務局)

2. 市長あいさつ(市長)

3. 委員紹介(事務局)

4. 会長及び副会長の選任について

- ・会長の選出(市長) : 会長を渡辺委員決定
- ・副会長の選出(会長) : 副会長を浅利委員に決定
- ・会議録署名委員の指名(会長) : 神保委員・岡田委員を指名

5. 意見を求める内容「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の策定について」

市長から文書による審議依頼(諮問)

(市長から会長に諮問を手渡し)

(市長退席)

○事務局

(諮問文の内容について説明)

6. 審議会の進め方について

○会長

審議会の進め方について、もう少しかみ砕いた説明を事務局からお願いします。

○事務局

(資料2から資料6に沿って説明)

○会長

事務局から進め方について説明がありましたが、資料2の上段の規程は豊中市条例、下段は国の法律ということでよいですね。

○事務局

はい、そうです。

○会長

では、次に豊中市のごみ処理・リサイクルの現状と動向について、資料7に沿って事務局から説明をお願いします。

7. 豊中市のごみ処理・リサイクルの現状と動向について

○事務局

(資料7に沿って説明)

○会長

みなさまから、確認等を含めてご意見があればお願いします。

○委員

人口推計はどのように考えていますか。

○事務局

本市では、「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に沿って将来展望人口推移を予測しています。5年ごとに推計人口を算出しており、第3次一般廃棄物処理基本計画で当初予測していた人口よりも、高い水準での人口推移を予測したものになっています。

○会長

近年人口は少し増加傾向にあるのですね。

○委員

資料7の4ページにあるごみの量や資源化量などの、順位表、これはおもしろいと思うが、順位で上位になっている他市については、その要因等を調べていますか。

○事務局

要因を調べるまでには至っていません。今後の会議で要因についても報告したいと思います。なお、ごみ有料化について、参考として左の列に記載があります。そのほかにも各市での施策内容が関連すると考えます。

○委員

上位になっているところは何かしら要因があるはずなので、ぜひ分析してもらいたい。

○会長

調査するようお願いします。

○委員

資料7の表1は感心しました。豊中市の順位が低いところについては、これから取り組んで減らしていけると思います。そこに注力すれば効果があると思います。

○会長

大阪市や泉佐野市は事業系ごみ量が非常に多いが、事業系は事業者のごみ、委託業者が運搬するごみは家庭系ということでよいでしょうか。

○事務局

そうなります。

○会長

わかりやすい資料をありがとうございます。よりブラッシュアップするなら、各市の処理手数料を入れてもらえれば良いと思います。また資料7の図5については、重量で見ていると思いますが、容積で見れば、さらに違って見えると思うので、ご検討ください。

7, 8 ページの施策経緯ですが、ごみ減量フォーラムは、始まった年以降は書かなくてもいいかもしれない。また、条例改正などを盛り込んではどうでしょうか。

○会長

資料7の5ページ「9分別収集実施によるごみ減量効果」に、紙・布類は焼却処理されている現状でありと書かれている。何らかの手段を講じると、焼却以外に別の方法があれば見通しも明るいですが、これはどう捉えたら良いか。

ご意見があれば、おっしゃってください。

○事務局

紙・布類の焼却処理は、分別されていないものが焼却されてしまっているという意図での記載になります。紛らわしい表現で失礼しました。

○委員

諮問文にもあるごみ処理施設の件、大阪湾フェニックスの件など、豊中市のごみ処理を取り巻く外部状況についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局

新施設については、昨年度末に稼働を始めた。日量525トンの処理能力を有し、稼働率や災害ごみ対応などを勘案し、1年間の処理規模は、15万7千トンとなっています。

近年、環境省から、処理規模を超えることはならないと指示があり、この15万7千トンは超えられないという状況です。

また、大阪湾フェニックスについて、可燃ごみの灰埋立処分場は、灰固化物の溶融などの努力をしてきました。数年でなくなるわけではありませんが、次の最終処分場について考える状況にあり、延命への努力は必要だと考えています。

○会長

計画処理量が日量 800 トンから 525 トンになったが、全発熱量は、ほぼ一緒くらいですか。

○事務局

カロリーが上がっており、ほぼ一緒くらいです。

○会長

稼働率はどのような状況ですか。

○事務局

99%で、ほぼフル稼働です。

○委員

さきほどの 15 万 7 千トンは伊丹市も込みだと思うのですが、豊中市のみではどのくらいですか。

○事務局

約 10 万トン、6 : 4 位の比率です。

○会長

他にいかがでしょうか。

昨今では、災害廃棄物、空き家・なくなった方の片付けごみ、特に後者は制度的なものはありません。幸い豊中市では、空き家が増えている状況ではありません。

他に特になければ、現状説明については、いくつかコメントがありましたので、今後のとりまとめの際に参考にしてください。

では、次に資料 8 をお願いします。

8. ごみ減量計画の施策評価について

○事務局

(資料 8 に沿って、説明)

○会長

それでは、みなさまからご意見をお願いします。

○委員

3 ページの事業系ごみの削減ということで、立ち入りや指導と聞くと、民間事業所は身構えてしましますが、趣旨や指導の内容などを教えてください。

○事務局

多量排出事業所にあたるところについては、伺った際に、雑がみの分別などについて、説明を行っています。また、分別等がされていなかったり、間違えていたりする場合には、指摘を行っています。

○会長

事業系ごみがあまり減っていないということに関連してという事だと思っています。

事業所としては、すでにぎりぎりまでやっているという話や、古紙業者としては、まだまだ回収できるなど、何か状況を話していただける方がいらっしゃいましたらと思いますが、事業系が現在増えている原因としては、どういったものが考えられますか。

○委員

許可業者の立場から話すと、家庭系のごみが事業系に戻ってくることもあります。事業系が家庭系に混じっているということも考えられます。家庭系のごみが事業系に入ってきているのは大きいと思います。また、事業系ごみの収集の際に、許可業者から分別について、説明等を行い、改善をうながしていることもあります。

事業系ごみに関して、景気などの経済的な状況の影響も大きいと思います。

○会長

家庭系から事業系に入っているという重要な情報提供でした。

○委員

企業で何十年もごみを減らすことを業務としてやってきました。ただとても難しい。豊中市の状況がだんだんとわかってきたが、他の自治体の中には、少しの努力をただけでも市長名で表彰したりしているところもあります。表彰状 1 枚のことで、受け取る側においては、本社等からの評価にもつながり、ありがたいものです。

また、行政からの立ち入りにも立ち会っていたが、減らせる部分を細かく指摘してもなかなかできない。去年よりも頑張った部分を少しだけでも誉めていただくことの積み重ねで、10年くらいの年月を経て変わると思います。

事業系のごみについてもコミュニケーションをとることや、評価していくことが大事だと考えています。気を長くして活動を評価してほしいと思います。

○会長

他にございますか。

○委員

資料8の4ページの食品ロスについてですが、食べ物が無駄になるのはやはり悲しいと思います。子どもたちを含めて、どのように働きかけをしてきたか、あるいはこれからしていこうと考えているのか教えてください。

また、一家庭で少し減らすだけで効果があると思うので、提案いただきたい。

その他、3ページの廃棄物減量等推進員の取組みについて、減量等推進員については、きちんと評価し、進めていただければと思います。

○会長

小型家電リサイクルの件があるが、イベント回収を実施した効果、意味はありましたか。

○事務局

イベント回収については、PRするという位置づけでしており、効果はあったと考えています。

○会長

小型家電の回収ポストは口が狭いと、FAXなど比較的大きなものが入らなかったりします。

○副会長

食品ロスは、いまホットな話だと思います。

平成24年度の組成調査で、食品ロスの内訳がどの程度なのか調べていますか。家庭ごみの約4割が生ごみで、食べ残しなどの食品ロスはおおむね3～4割程度かと思います。さきほどの委員の発言は、非常にごもつともだと思います。

また、さきほど、紙・布の分別が今一つだといういだったが、焼却ごみへの混入比率や、布の取組みについて何かあれば教えていただきたい。

資料8の1ページについて、資源化については、新聞紙の購買数が減っているなど、社会的状況が影響しています。今後で考えれば、大人用紙おむつなどの増加も考えていく必要があります。

また、同じく3ページ、リユースの取組みがあれば教えていただきたい。

加えて、3R検定をご紹介いただきありがとうございます。現在3R・低炭素検定に名称を変更しておりますので、修正をお願いします。

○委員

資料8の1ページ中段、可燃ごみが少し増えています。さきほど、新しい焼却炉では、10万トン程度ということだが、平成27年度で10万トンになっています。これは危機的な状況でしょうか。

○事務局

そのとおりです。現在、のりしろとして確保している災害処理分も使っているため、危機的な状況になっています。ごみピットとの絡みもあり、そうなります。

○事務局

組成については、生ごみは可燃ごみ全体の約4割、その生ごみのうちの食品ロスは約12%となっています。

また、リユースに関する取組みは、eMIRAIE 環境交流センターでの陶器とりかえ隊があります。

布類は、平成27年度では9%程度が資源化されています。

○事務局

ごみの発生抑制が非常に大事であり、臨時ごみのリユースを5月から行っています。また、子ども服のリユースも事業化できないか考えています。フレフレごみ減量通信を平成26年12月、全戸配布でお伝えしています。平成27年2月に、食べ残し削減の取組みで有名な長野県松本市から講師を呼び、ごみ減量フォーラムで食品ロスについて、ご講演いただきました。

○事務局

リユースの取組みだが、豊中まつりの一部でリユース食器の導入を図りました。今年度は、昨年度より規模を少し広げる予定です。

○会長

イベントで盛り上がるのは非常に大事です。リユースの行政関与については、それで雇用が増えればいいが、かつては税金の無駄使いという話もありました。いまはインターネットでの物々交換などがあり、さきほどの陶器のように、遠くへ送ることが難しいものなどは、地域で取り組む意味があるので、そういったものを広めてほしい。

○会長

話は変わりますが、持ち去りの状況はどうですか。

○事務局

3月と、持ち去り禁止条例施行後の4月では持ち去りの状況が大きく変わり、持ち去りする者がいなくなりました。生活困窮者については、他部署と連携して対応している状況です。

○委員

食品ロスについてですが、家族の人数も減っているなか、少量商品がほしいと消費者としては思います。

○委員

事業者としても少量で提供できる方向で行っています。数年前までは膨大な量を捨てていたが、企業側も努力をしてくれている。お客様のニーズもそういった傾向になってきてくるので、対応している状況です。

○委員

50数年主婦をしているが、スーパーがたくさんできた。なんでも発砲スチロールに入っています。なんとか事業者の方に努力してもらいたい。以前、豊中市は腐葉土作成に援助していたが、いまどうなっていますか。

○会長

過剰包装は、お店側も努力されていると思います。

○委員

できるかぎり減らしたいが、商品保護のためにどうしても必要になる部分もあります。たとえばマーガリンでも遮光しているかどうかで差がでできます。少なくしたいが、できていない部分もあり、努力をしているのでもうすこしお待ちください。

○委員

要望にあるとおり、一部裸売りなどもしています。ただ片方では包装した方が見栄えがよいというお客さまもいます。また、水産では、トレー無しで直接商品をパックするというものも開発しています。企業側も容器包装は使えば使うだけ経費がかかるので、薄くするなど努力をしています。レジ袋についてもできるかぎり薄くするなどして、経営努力を図っている状況です。

○会長

事業者も相当の努力をされていると思います。

○委員

話はかわりますが、さきほどの持ち去り条例の件ですが、条例が施行され99%なくなったと思います。その分、となりの吹田市にそういった方々が流れて行って、困っていると聞いています。

また、長年お願いをしていた報奨金は3円から5円に引き上げられました。集団回収の高齢化、少子化で子供会がいなくなる、自治会加入率が50%を下回るなど、集団回収をしたくてもできないという状況があります。また、5円に上がったことを知らない人もいますので、それを聞いて再開しようという方もいます。まだ3ヶ月ですが、ぜひ増やしていきたいと考えています。

○会長

集団回収の品質や要望などはどうですか。

○委員

持ち去りを行う人は、持って行けるものしか持って行かない。これまで、持ち去り対策で立ち番等をしていただいていたが、それもしなくなっており持ち去りについては、本当に効果があったと思います。

○会長

事務局から何かありますか。

○事務局

さきほどの生ごみたい肥化の件について補足します。NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 さんが助成をされています。

○会長

本日はいろいろと意見をいただき、有意義だったと思います。
ほかに事務局から報告事項等をお願いします。

9. その他

○事務局

(市民アンケートとごみ分別アプリについて説明)

○会長

では、次回についてはいかがですか。

○事務局

今回は、9月中旬頃を考えています。また、日程調整のご連絡をさせていただきます。

○委員

アンケートをされるようであれば、先ほどクリーンランドや埋め立て処分場が逼迫しているということもありましたので、具体的にどこに切り込んでいけばよいのかがわかるようなアンケートにしてもらいたいと思います。

○会長

それでは、本日はさまざまな意見をお聞きでき、また、事業者からの意見も出されて非常によかったと思います。

これで、本日の審議会を終わります。

以上、会議の顛末を記載し、その相違ないことを証明するため、ここに署名する。

平成28年(2016年) 8月 日

委 員

㊟

委 員

㊟